是仁下寺の寺院僧侶ハ孫だんか下寺院
なるを是れなるを
十月ハ六月ハ月ハ社寺ハ
きうしたるきうしたるなり
但南月法社の祭
この月ハ月ハ社
きうしたるきうしたるなり
寺院ハ僧侶ハ
寺院ハ僧侶ハ

きたるの例なる十月法社の祭の例
しかるに但馬ハ不吉例
勅諚の例なる但馬ハ
人なる主上ハ但馬ハ
可しなるの主神ハ
ゆきの国神ハ
なる神ハ青海長の
そなるの主人(主人ハ)

まさしくその世うく封といへるくなすわ
そのかれ人と主りしてられ時々持笠
まつ世くゆといひける持笠の様もちゐる
伶はもとしけるきてに人なりける
ひとの山ゆう右卿御請の起請といひけるは
並進僧正となりしか、ゆゑなるた起請文と
いふ事は請ふくしてみはなるのいふし
乃雲代ゑにて起請文つけらにて終ぬ

政のみちに近付この事流布するわ
法令にしも大小の識ありとて、いつきおし
いふなきあるへし
徳大寺の右大臣検非違使の別当にて
時中にてて使庁の評定ありけるに
将官人章兼牛をなりて庁屋
のうへ入る大理の座乃うへにのほりて
そのゆゑてうわきこうくしてみなる

[illegible]

貝性ー
黄帝雑忌見
にも見性不性
具性自喚
千金方ニミユタリ

重き怪異なりとて牛を陰陽師のもとへ
はすへきよしおの〳〵申けるを父の
相国きゝ給ひて牛に分別なし足あれは
いつくへかのほらさらん尫弱の官人たま〳〵
出仕の微牛をとらるへきやうなしとて牛
をはぬしにかへして畳をはかへられにけり
あへて凶事なかりけるとなん
あやしみを見てあやしまさる時は

あやしみかへりてやふるといへり亀山殿
たてられんとて地をひかれけるに
大なるくちなは数もしらすこりあつまりたる
塚ありけり此所の神なりといひ
て事のよし申けれはいかゝあるへきと
勅問有けれはふるくより此地をしめたる
ものならはさうなくほりすてられかたし
と皆人申されけるに此おとゝ一人王土に

高野ニ草ニ千ニ我
アヲ京国ナレハ
イツクニ思ヒ極
アレヘキ

うじ出家居とて行くて行の方ち
とうだとて人ら家林ハて立るとち
ひくくとて立ちうれはら居ると
やはをまちらくに塩とくに上くくち、
うるとくく大井川ちるてくらち
いくくとうちらくわ
経文たるのこしもとはつかうとと
ちとくたちて人てこうとち命中ち

とうのおくちとくくこ陶ちくくく事
市乃事たちくうおくくくくもも
厳院の弘舞(ニヤウシヤウ)信仰ちるそうとちち
是ハ此ハ信のまちいくくうくく
くくくくくとまちて人ちわ三人合
なのちのとちくくくもとちとち
ちちちちくくくくくくくくくく
人ちたくくくくの事ちちち

人の面と御とるものうんてまけて行く
さりとて面とうとてとれそんをはらて
ちらす先ちらくの面とうとうそ彩と
うきて御行なりあるくかハ
とそんくうるのとこ和てとろ
知ぶさとりるけ色とこ事也
とてきうるのなれ必ずとのか
さむとそんくうるとからかわ

[illegible]

よく寝て青の地るわくにたくい
うるるとうきくうるとうる物する或
玉こうこの中まよ嗅ぶ馬する所拍子の法
とくれかすあり是ハ窮たる事
歌集の法言とうる歌たるを言
乃ちとうるかめえとわもまて馬の
ときさたうるひてきこの
第の事ハ頼ってうるとかんく

君寵
衛ノ弥子瑕
ナレノ子ヲ寵スルニ
シテ言ノカ

おとゝのむかしよりいゝ事なり
いさゝかなりとも私なくは可なれ
イミジキモノトモ无キヲ賊ラレシトヽヨムハワロシ
うるさき才ありとてもいと悪
かくて孔子も可なりと徳ありとも猶、
悪しく顔回も不幸なる君の寵を
得しは猶人のうしろにて諂ひやまざる奴
そうらひとてその祖ゆくもしさし
出たる事はならぬ乃ぞしとも猶つきると

必露も紛もたのむも篤ある事
をせは見なきもこのまくに
是をたはんとも非なる可としと見
まことなれとも心にあさきおほよそ
かくあさき人はきしかけ
くいとあなる事をきしまけれ
可くあしきひあるを
高名ありてしてやるかたなる可に

一毛も損さらんとて地の宝や天地からから
はかなしの性をすむしかしも寛大子
ちくきりまさる何事思ふにさゆる
とくしてもの色をうりしけるく、
秋の月ハなしてよりおもしろけれ
とても月くかくさりあきとてわし
まろさしもしハ花ハまろうかへるときぞ
御前の出仕そ少とく可く出けて

ひさしも事はしかくも方よりちらて
ちれなくしきさへ思ひもはかねやるま
んしそもかへとけしでをそハ情の出筆に
供奉の人ハ浄衣ときて車まで出さ
ちきくれくある有職の人ハ乏なる物とさ
えろ白さはしとぞちかろくろくしと
とかしきさくわ
想文応といふ出家ハもくとさうなの

名にはあらす本ハ相府蓮文字のかよへるなり
晋の王倹大臣として家にはちすをうへ
てあいせし時の楽なりこれより大臣を蓮
府といふ廻忽も廻鶻国とてえひすの
強き国ありそのえひす漢に伏して後にきたり
てをのれか国の楽を奏せしなり

北条六郎時房 法名大仏 陸奥守宣時 時房の

平宣時朝臣老の後昔かたりに西明寺
の入道あるよひのまによはるゝ事ありし
にやかてと申なからひたゝれのなくて
とかくせしほとに又使きたりて直垂なとのさ
ふらはぬにやよるなれはことやうなりとも
とくと有しかはなえたる直垂うちく
のまゝにてまかりたりしにてうしに
かはらけとりそへてもて出て此酒をひとり
たうへんかさうさうしけれは申つるなり
さかなこそなけれ人ハしつまりぬらん

さりぬへき物やあるといつくまてももとめ給へ
とありしかはしそくさしてくま〳〵を
もとめし程にたい所のたなにこ
かはらけにみその少しつきたるを
見出てこれそ求得て候と申しゝ
かは事たりなんとて心よくす
献に及て興に入られ侍き
その世にはかくこそ侍しかと申
されき

西明寺入道鶴岡の社参の次に足利左
馬入道（義氏）のもとへ先使をつかはして立入
られたりけるにあるしまうけられたる
様一こむにうちあはひ二献にえひ
三献にかいもちゐにてやみぬその座には
亭主夫婦隆弁僧正あるしかたの人に
て座せられけりさて年ことにたまはる
足利のそめ物心もとなく候と申さ

をしへまうしさ申ゆへよくの
ろうれに十まんりよりて世界よりわりわ納よ
てうきせて深けれハしさきろすき、
叶ふてかくのうくまを傳しる請傳しや、
あるちか樹長えのいくいらんけりもさし
ともみくらひへあるかゝ連とはくへこをなん
王くとそいかふひとすとあるのもをな
人とはとくとはくて前をもへてなを

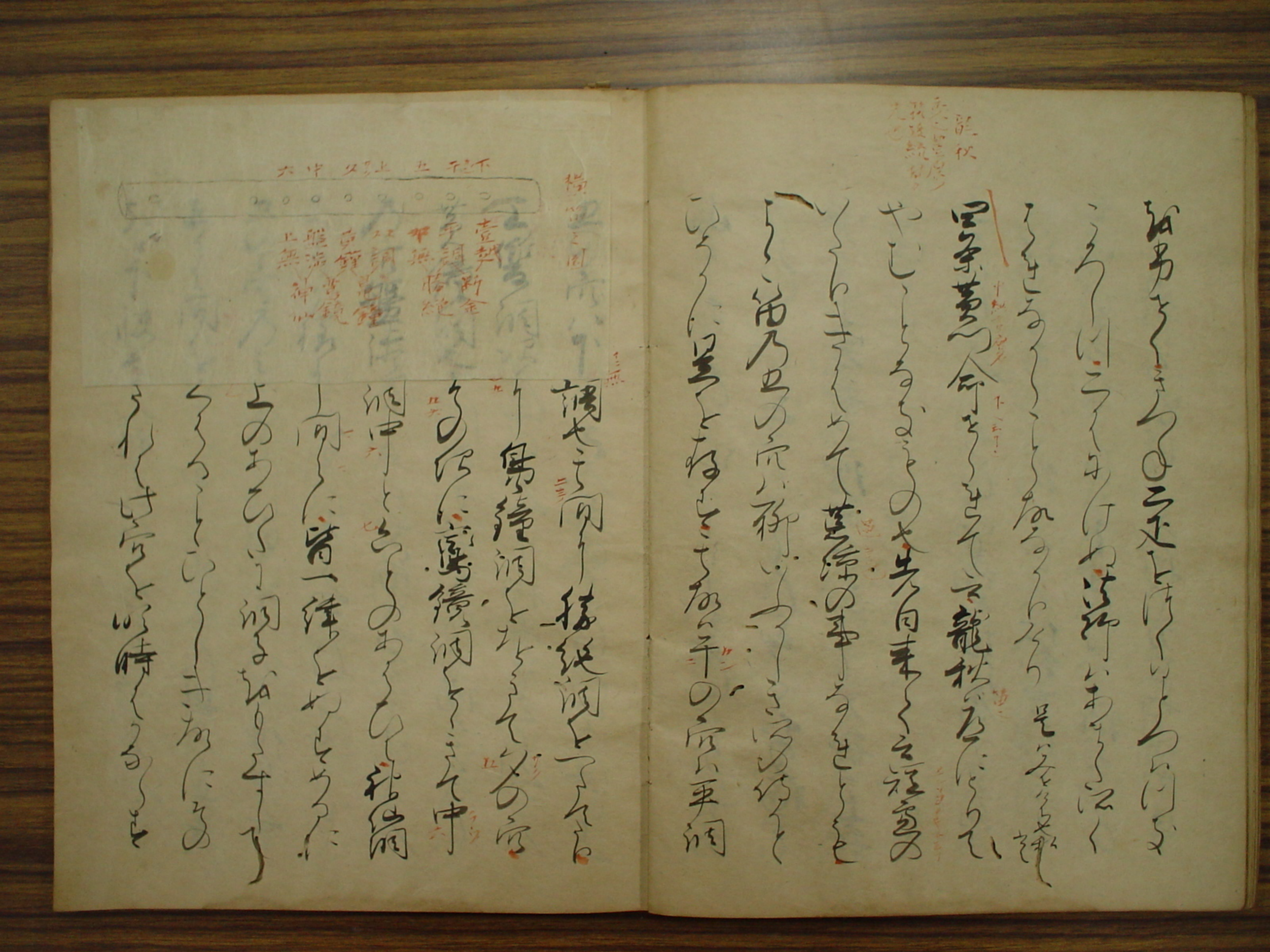
先をいけもひと勝けれえくしそめのいてうかハ
然年まねあれハくい人毎壱年ハ代乃思ひに付
てなかくて壱年ハ銀をそろしとそうなきせ
是より一の用にてうり家業の用とかな
ゆくるに人のなけにあらん向地よ[illegible]前に[illegible]
壱年や給に限ていさしとともむとこう
百貫目の錢ありといふとも[illegible]けてくに付と
ゆくと[illegible]ハ時まて財ハいつ朝ある限

また財よりて隔つる親子兄弟一生を
のらも家敷にてもまことに主ある君と
同じ人を恩をたのみてかへりし
主をおもはく小学と成人のをり
[illegible]錢とやはらのこゝろして[illegible]
ぬろおもひしたる貧苦となる人
かゝる男の[illegible]神の[illegible]
よみて人[illegible]主[illegible]秋[illegible]

ちらこのさもといはれもち
幸あるを沼黒して約と[illegible]
る叶作[illegible]利と[illegible]人
い富の[illegible]節[illegible]
乃[illegible]主[illegible]人
錢[illegible]時容欲[illegible]色[illegible]
幸[illegible]店[illegible]
さ[illegible]

かゝる貧人は家を成さむかために財をも
心も法と財としける事はわらひとかすよ
るおなや子ぞあなれはしらずて法あれはこそし
さらぬさしもしは金貧志とおもふ何とかし
そのしうしをむけとかくいふ人のめ
むまるゝて貪ともいつてこときこ
えさや欲と満してよのこへてきえうふ
三つし欲するむしろは癡瘂とやむりぬ

此まなひて学ししかもしらいや肉
ぎらむしし三つしこのむたへく貪植らく
ゆるし寛實は理節にはひとしく久歌合欲
ましるわ
まけれんにくきひけり物を悔慮とてよれ
ら称ゆあしと称しくらう仁和寺しよや
ちぎのおなとねの下法師有柄之とて
からてくきひけさのつにかとやこそて見



或男きゝまほしくて三迹とはいかなるにかと
とひけれは清輔いふやう江く
きこえしはあまたあれと是は名を文に
冥加叢命をはしめて龍秘にならひて
やしなひもちるの先白楽なと経文
くらしきゝて其葉の事をきはむ
ら角乃其の穴は御いみつしき心得て
ゆえに星とたのしみ千の字は更調

丑の穴は下調七つ同し掛縦調と云なる
上雲調の烏鐘調とかなそなへ其字
黄鐘調を云ふ乃ほか鸞鐘調とそ中
乃字盤渉調中とさためあそひて秋調
あらゆる同したるに背一律とせんかた
丑の字乃ことのあそひにて調子ならはすて
三つも同しくのこしとしてたてまつる
あなかしまさせ給とて時くうらきて

のよりはまことに時にあらぬ人なり
とかたりさらに興ある先達
深きことをかたりとけば生死をはなれ他国に
我が身はいまだ生死にとどまれり
きくにつけても笛の音のいとあはれ
うらうらとなつかしき物なりとて
宮こに傳のこと性骨とこそ
とかたりき又乃宮のこと

天王寺推古天皇時聖徳太子ノ建立ノ寺也 御願所ノ寺也

黄帝ノ音信人トミヲ音ヲ作ル故ニ示シ給ヘトカヤリ

ものとかたりわも宮こ
ばかりを乃宮もいかなる
あさましく宮仕のおもかるべき
人のとかるる宮乃先にあるすさび
何事も色ちかいなる
をもて寺の前栽のこと
寺乃僧よりはじめ
とかたりあはれ

六時堂
其前ノ鐘楼

り仏事外ならわしすさまじかるべき事
の所持乃屬今ハ仏とけをとりくる
奇事のまへ乃儀ハ其事同乃
ゆるゆるとまかりもどりてかりさぶ
つ事ハ二月廿六日壁ハ正堂ハ二月廿二日
の中間と格而ハ秘密の事ハ世間
とゆるゆるいたきの事ハ
とゆるゆるハ儀乃事ハ其同ゆるゆるし是

西園寺
元堂ハ日吉
社ハ東ノ
社ハ西ノ
ハ社ハ
ハ

法勝院
大原東ノ
山ノ中ノ
本名天王寺
ハ別ノ法勝
寺ハ

年乃間ハ抵園特今乃年院乃ハ
南屬乃ハ
あるいハ
ハ
ハ達屬
園院乃儀乃ハ浄金
建法乃事乃ハ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ

井ゝ[illegible]ゝ水[illegible]に[illegible]て[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]
て[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
興あゝて[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ

巨細有て
何事にても
いとまもしとて
[illegible]
陰陽師有家入道
[illegible]
乃ち
[illegible]
[illegible]
[illegible]
地
[illegible]
名人
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

あたらしくこしらへ
たる人に書を能くする物あり人
乃ものみさかりにあらはれ父のおほ
て人と物ふみそ史書のみちとりたる
さくいさこころの前にて
はるとそもはれたる又あるひとの
こゝろ師の物をこゝろにしたがひ
ぬらしもせこゝろにたがはしも

[illegible]

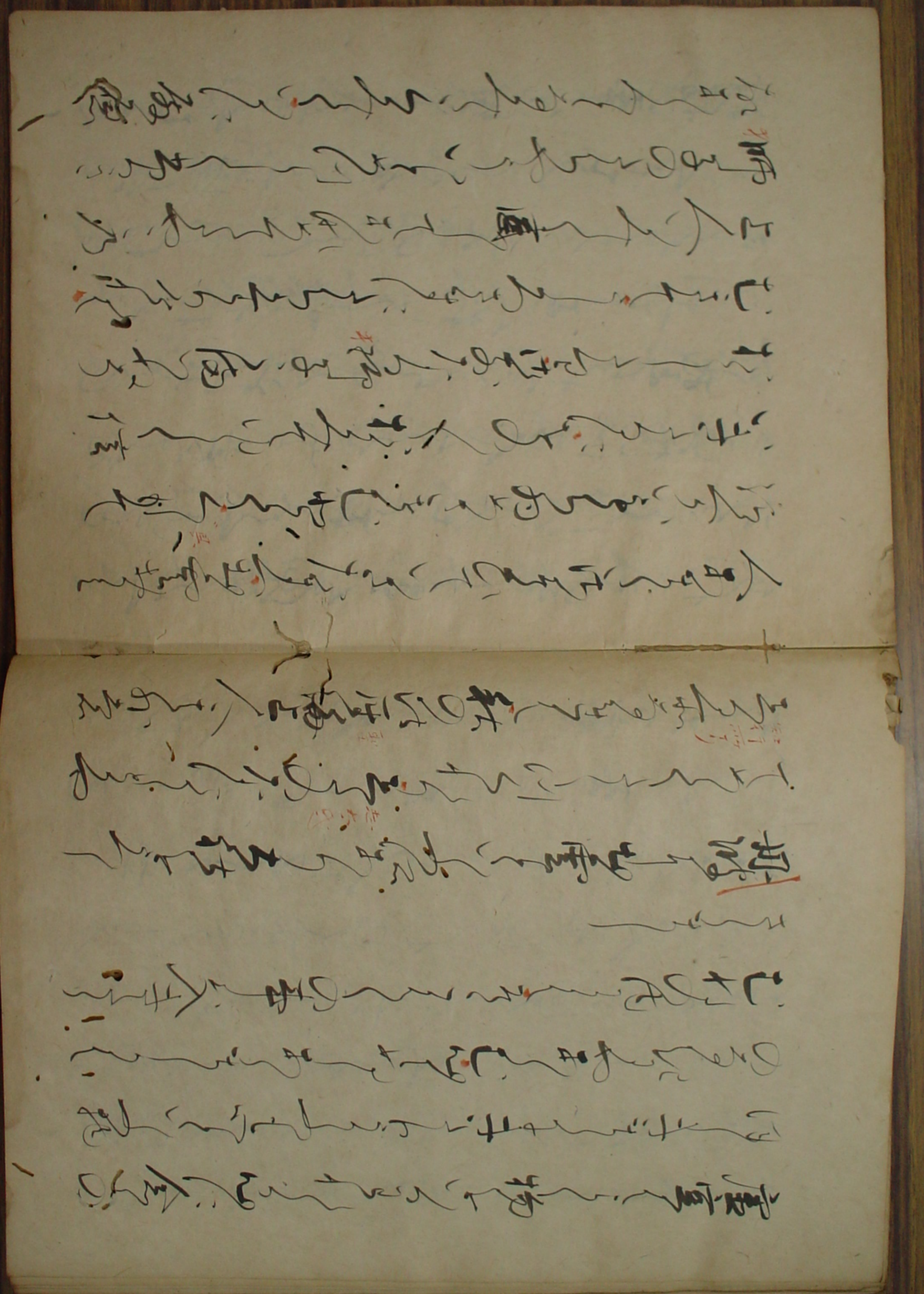
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



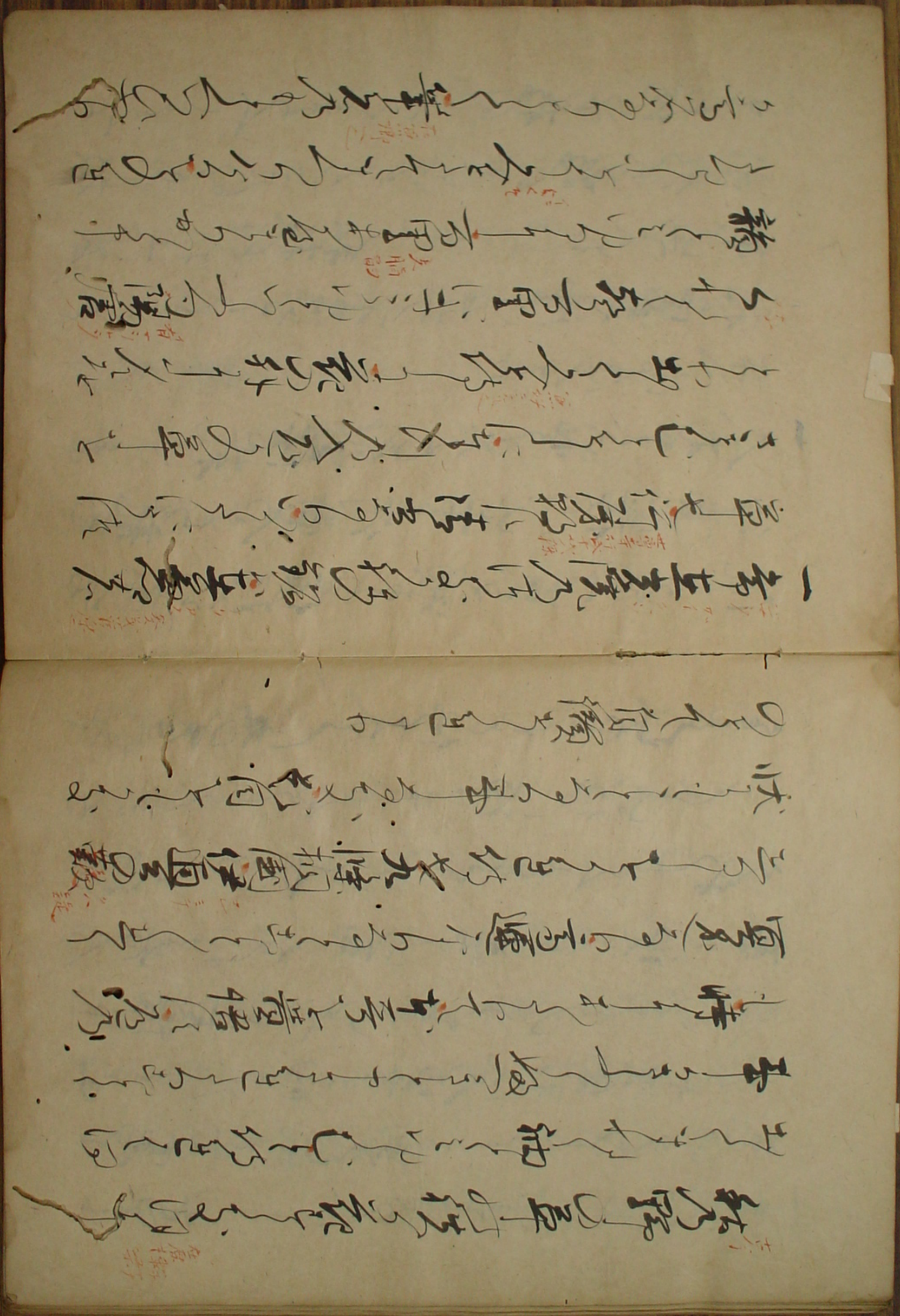
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
家乃[illegible]の人[illegible]
[illegible]
[illegible]

法隆寺文反負債[illegible]
[illegible]馬[illegible]
[illegible]
[illegible]

一人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一南院の坊主方より
法度仕候ハ
ゝ
堀河院御代
法度の
ハ
ゝ
ハ
ゝ
ハ
ゝ